

総務文教常任委員会資料

平成30年6月7日

まちづくり政策部

企画政策課：

- 1 加東市地域公共交通網形成計画の目標を達成するための17の施策と優先的に取り組むべき重要施策の進捗状況と計画期間内の見通しについて・・・・・・ 1ページ
- 2 統計調査データ分析結果について・・・・・・・・・ 別冊

加東市地域公共交通網形成計画の目標を達成するための17の施策と 優先的に取り組むべき重要施策の進捗状況と計画期間内の見通しについて

加東市地域公共交通網形成計画では、計画の目標を達成するために17の施策を定めています。(★印を付している施策が重要施策です。ページ番号は当該施策の計画書掲載ページを示しています。)

1. 交流の中核となる新たな交通結節点の整備★ p. 99～100

市職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、バスターミナルの形態・機能・規模等について調整をしています。また、神姫バス株式会社とバスターミナルの整備にあわせた、やしろショッピングパークB i o周辺への社営業所、車庫等の移設について協議を行ってきました。

平成30年度は、やしろショッピングパークB i oを管理しているやしろ商業開発株式会社とバスターミナルの整備箇所の協議・調整を行い、整備箇所と規模を決定します。

平成31年度に用地取得、平成32年度及び平成33年度に整備工事を行います。

2. パーク&ライド推進のための駐車場等の確保 p. 101～102

平成29年度は、滝野社インター停留所北側に収容台数が最大45台の駐輪場を整備し、高速バスの利用環境を充実させました。

平成30年度は、社町駅前の市営駐車場の空き状況をより細かく情報発信することで、当該駐車場の利用率を向上させるとともに、JR加古川線の利用者を駐車場の区画数が少ない滝野駅から社町駅に誘導することで、社町駅におけるパーク&ライドを推進します。

平成31年度以降も、鉄道駅及び高速バス停留所周辺の駐車場・駐輪場の充足状況を把握し、情報発信をすることでパーク&ライドを推進します。

3. 東西にある既存ストックの有効活用による観光・交流のまちづくり p. 103～104

「5. 高速バスの一層の利便性向上による定住化・交流の促進」にも関係しますが、平成30年度に加東市地域公共交通活性化協議会において行う高速バスの利用実態調査にあわせて、市内移動の高速道路活用について検討します。

4. 広域交通(鉄道・高速バス・路線バス)と連動した地域公共交通ネットワークの形成★ p. 105～106

乗継待ち時間の短縮による運行ダイヤの見直し、社三田線の運行ルート変更について、神姫バス株式会社と協議を行ってきました。また、社三田線の運行ルート変更(久米経由廃止・厚利経由新設)及び米田ふれあい線の利用区間拡大については、平成31年度中の実現を目指し、米田小学校区内で米田ふれあい線の利用区間となっていない上久米、下久

米、久米の各地区の役員・住民を対象にした説明会の開催と、地域の主体的な取組による市町村運営有償運送の東条西小学校区内での導入の状況も勘案しながら、地域や交通事業者、さらに神戸市、三田市、三木市など、他の沿線自治体とともに協議・調整します。

5. 高速バスの一層の利便性向上による定住化・交流の促進 p. 107～108

加東市と大阪を結ぶ高速バスの利便性向上のため、始発を今より早い時間帯に、終発を今より遅い時間帯になるよう運行ダイヤを見直すことや、社営業所（将来的にはやしろショッピングパーク Bio 周辺に整備するバスターミナル）を大阪方面行きの発着点とすることについて、神姫バス株式会社及び西日本ジェイアールバス株式会社と協議を行ってきました。

平成30年度は、加東市内の高速バスの利用需要を把握するため、市内4箇所の高速バス停留所で利用者数、利用者の属性、利用者の利用頻度等を調べる利用実態調査を加東市地域公共交通活性化協議会において行います。

高速バスの運行ダイヤの見直し等については、平成31年度から、他の沿線自治体との協議・調整を行います。

6. 小中一貫校のスクールバスの有効活用 p. 109～110

平成33年度から東条地域で小中一貫校のスクールバスの運行が始まることから、平成31年度及び平成32年度にスクールバスの有効活用や混乗の実現に向けた研究を行います。

7. タクシーの有効活用に向けた取組★ p. 111～112

平成29年度に福祉タクシー事業の一部を見直しました。福祉タクシー事業は、閉じこもり予防や外出支援を目的としているため、福祉タクシー券を複数回に分けて利用してもらえるよう、1度に使用できる福祉タクシー券の枚数の上限を5枚とする制度に変更しています。引き続き、事業の効果を評価・検証します。

乗合タクシーの導入については、地域の主体的な取組による市町村運営有償運送の導入が困難な場合に検討します。

8. 地域や学校、事業所を対象としたモビリティ・マネジメントの実施★ p. 113～114

加東市公共交通ガイドブックを活用したPRや、公共交通機関の利用者が少なくなることで減便や路線の廃止につながるため、乗って守らなければならないことの意識付けに努め、公共交通機関の利用につなげます。

平成32年度に兵庫教育大学の学生を対象に地域公共交通に関する講義などを実施し、その講義を受けた大学生の協力を得て平成33年度に小学生に対してモビリティ・マネジ

メントを実施します。

9. 待合環境の改善 p.115～116

平成30年度から、待合環境の状況を把握し、利用者や乗継利用の多い停留所から計画的に待合環境の改善に取り組みます。また、地域の主体的な取組やスポンサー協力企業を募集し、ベンチを設置するなど、更なる待合環境の改善に取り組みます。

10. 情報通信技術（ICT）を活用した利便性の向上 p.117～118

平成30年度から、市のホームページ、広報紙によりICカードやバスロケーションシステムを周知し、公共交通機関の利用につなげます。

また、「4. 広域交通（鉄道・高速バス・路線バス）と連動した地域公共交通ネットワークの形成」において、社三田線の運行ルート変更の協議を行う際に、交通事業者へICカードの利用データの提供を依頼し、活用します。

11. 地域公共交通に関する情報提供、PR施策の展開 p.119～120

平成29年度は、国の補助金を活用し、市内の路線バス、高速バス、鉄道の路線を表示したマップ、時刻表、運賃表のほか、乗継ポイントやバスの乗り方などを掲載した「加東市公共交通ガイドブック」を作成し、市内に全戸配布しました。また、市の施設に置いています。

平成30年度からは、交通事業者と共有した情報を積極的に発信することで、公共交通機関の利用につなげます。

12. 観光入込客に対する地域公共交通確保の検討 p.121～122

加東市の主要な観光資源である東条湖及びその周辺への公共交通機関によるアクセスがよくないことから、平成30年度は、路線バスの乗り入れについて、観光関係者や交通事業者と協議します。

13. わかりやすく、利用しやすい運賃のあり方による利用者の増加 p.123～124

市内移動について、ICカードを用いた上限運賃制度の他市の事例を集めるなど、調査・研究を行っています。上限運賃制度の導入は、市の財政負担が伴うこと、また、市町村運営有償運送の維持に影響を及ぼさない運賃設定をする必要があるため、引き続き、調査・研究を行います。

14. 地域公共交通のバリアフリー化の推進 p.125～126

平成29年度は、米田ふれあい線の車両を更新し、ステップと手すりを装備した送迎仕

様車を導入しました。神姫バス株式会社社営業所においても、ワンステップバスの導入を進められています。

引き続き、交通（バス・タクシー）事業者に対してバリアフリー車両の導入を要請していくとともに、「8. 地域や学校、事業所を対象としたモビリティ・マネジメントの実施」にあわせて、心のバリアフリーを推進していきます。

15. 地域の主体的な取組による移動手段の維持・拡大と新たな確保★ p. 127～128

平成29年度は、運行環境の改善として、運転手の報酬を1往復2,000円から3,000円に増額し、畑公民館と平木公民館にカーポートを設置しました。さらに、利用者の利便性を向上させるため、米田ふれあい線の車両を8人乗りから10人乗りに更新するとともに、停留所の位置変更や増設を行いました。また、市町村運営有償運送の取組を広げるため、市広報紙での紹介記事の掲載、加東市区長会での導入事例の紹介に加え、取組を周知するためのPR動画を作成しました。

現在、東条地域の一部及び社地域の福田小学校区において各地区区長・地区役員等を対象とした説明会を開催し、新たな地域への導入に向けた取組を進めています。今後は、地域、交通事業者、関係機関と具体的な協議・調整を進め、平成30年度中の新たな地域での運行を目指します。

公共交通空白地の解消手段として、地域の主体的な取組による市町村運営有償運送が有効に機能していることから、既に導入している地域においては、引き続き、地域と十分に連携しながら安全で確実な運行を目指します。

16. 交通事業者のCSR活動による利用促進 p. 129～130

平成30年度は、バスに親しみを持ってもらい、バスによる移動について親子で考えてもらう機会を作り、公共交通機関の利用につなげるため、10月開催予定の加東市秋のフェスティバルにおいて、子ども向けのバス乗車体験イベントを神姫バス株式会社に協力いただき開催します。また、市内の保育園、幼稚園、こども園、小学校において、バス乗車体験イベントや交通安全教室を開催します。

17. 地域公共交通の事業推進体制の整備及び人材の育成 p. 131～132

平成30年4月の機構改革により、まちづくり政策部企画政策課内に交通政策係を設置し、事業推進体制を強化するとともに、市職員の国、兵庫県、NPO法人などが開催している研修会、勉強会への参加を通じて、知識の習得に取り組んでいます。

引き続き、市職員の知識の習得に取り組んでいくとともに、地域の主体的な取組による市町村運営有償運送について、携わった地域の方々の知識や経験を継承し、維持していきます。

加東市地域公共交通網形成計画の目標を達成するための17の施策と優先的に取り組むべき重要施策の進捗状況と計画期間内の見通しについて

	平成29年度			平成30年度			平成31年度			平成32年度			平成33年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1.交流の中核となる新たな交通結節点の整備★	庁内調整、神姫バス、関係機関との協議																							
2.パーク&ライド推進のための駐車場等の確保	滝野社IC駐輪場整備																							
3.東西にある既存ストックの有効活用による観光・交流のまちづくり	高速バス利用実態調査																							
4.広域交通(鉄道・高速バス・路線バス)と連動した地域公共交通ネットワークの形成★ ◇社三田線の運行ルートの変更 ◇米田ふれあい線の利用区間拡大	交通事業者との協議																							
5.高速バスの一層の利便性向上による定住化・交流の促進	高速バス事業者との協議																							
6.小中一貫校のスクールバスの有効活用	小中一貫校のスクールバスの有効活用																							
7.タクシーの有効活用に向けた取組★	福祉タクシー事業の一部見直し																							
8.地域や学校、事業所を対象としたモビリティ・マネジメントの実施★	公共交通ガイドブックの作成																							
9.待合環境の改善	待合環境の状況把握・改善、地域の主体的な取組、スポンサー協力企業の募集																							
10.情報通信技術(ICT)を活用した利便性の向上	ICカード、バスロケーションシステムの周知																							
11.地域公共交通に関する情報提供、PR施策の展開	公共交通ガイドブックの作成																							
12.観光入込客に対する地域公共交通確保の検討	東条湖及びその周辺への路線バスの乗り入れについて協議																							
13.わかりやすく、利用しやすい運賃のあり方による利用者の増加	上限運賃制度の調査・研究																							
14.地域公共交通のバリアフリー化の推進	米田ふれあい線車両更新																							
15.地域の主体的な取組による移手段の維持・拡大と新たな確保★ ◇市町村運営有償運送の新たな導入に向けた取組	市町村運営有償運送のPR																							
16.交通事業者のCSR活動による利用促進	秋のフェスティバルでバス乗車体験イベントの開催																							
17.地域公共交通の事業推進体制の整備及び人材の育成	市職員の研修会、勉強会への参加、地域の主体的な取組による移手段の継承・維持																							